

World Watching 125

ワールド・ウォッチング



辻村 幸弘

在フィジー日本国大使館二等書記官



バヌアツ共和国の概要

バヌアツ共和国は南太平洋上の南北1,200kmに浮かぶ大小83の群島からなる島嶼国家である。国土が環太平洋火山帯に属していることから急峻な地形を有し、大洋州島嶼国に多い環礁国家とは一線を画す。国土面積約1万2千km²（新潟県とほぼ同じ面積）に人口約22万人を擁する。社会経済基盤が比較的整備された都市部に居住する人々は、全人口の僅か25%程度であり、多くの人々は離島部の僻地に拡散して居住しており、中には貨幣経済とは無縁の自給自足に近い生活をしている人々もいる。同国の隔絶した地理的特性は、100以上の言語を生み、多様で独特の文化を醸成してきた。その反面、特に離島部の僻地に対しては、教育及び保健医療等の公共サービスが十分に行き渡らず、都市部との生活格差が生じている。



観光業に依存するバヌアツ経済

2000年以前の低経済成長から一転して、2003年以降の経済は、同国政府主導の投資誘致、小規模企業育成及び農産物輸出の促進により、経済成長率は堅調である（2003年以降平均6%）。GDPに占める一次、二次及び三次産業の割合は、各々16%、20%及び74%であり、観光業を含む三次産業の割合が圧倒的に高い（図1）。他方、極端な輸入超過であり一貫して貿易赤字の体質にある。同国の財政を支える基幹産業は、農業、牧畜及び観光業である。特に観光業は貴重な外貨収入源であり、航空便及び大型クルーズ船寄港回数の増加により、



ルーガンビル港

エファテ島

ポートビラ港

バヌアツ

オーストラリア

島嶼国の観光を支えるバヌアツの港湾

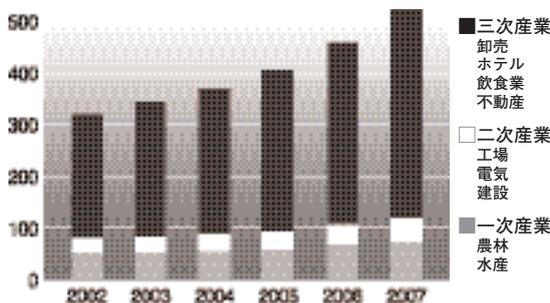


図1 産業別GDPの推移 (単位: 億バツ)

出所: Vanuatu National Statistics Office

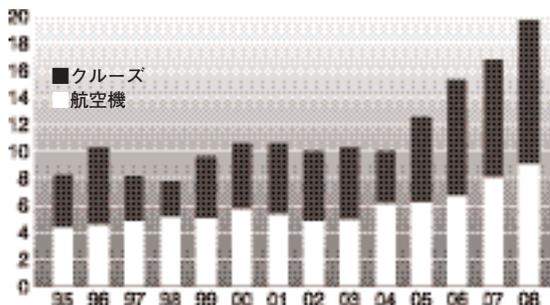


図2 交通手段別訪問者数の推移 (単位: 万人)

出所: Vanuatu National Statistics Office



ポートビラ港埠頭に寄港したクルーズ船と露店で賑わう臨港道路

2003年以降、訪問者数は飛躍的に増加している（図2）。2008年においては、同国人口と同数程度の人々が同国を訪れている（日本は約6%）。具体的な数値は公表されていないが、GDPの観光業・土地開発部門が占める割合は、4割に達する。また観光業により同国内6千人（首都ポートビラ市人口の1割以上）の雇用が創出されている。

港湾の現況

同国には国際港湾2港及び地方港湾20港が存在する。国際港湾であるポートビラ港及びルーガンビル港は、輸出入貨物の取り扱い及びクルーズ船寄港地として同国経済を支える重要な役割を担っている。1972年から供用が開始されたポートビラ港は、エファテ島西部のポントーン湾の最奥部に位置し、湾口にある島が防波堤の機能を果たし、常に静穏度が高い天然の深水港である。同港は、供用開始当時の港湾貨物の主体であった食料品や生活必需品などのバラ荷貨物及びパレット貨物を扱う国際・国内貨物の物流拠点として長期間に亘りその役割を担ってきた。しかし、近年の港湾施設の老朽化及び荷役貨物のコンテナ化に伴うヤード不足及び港湾施設の強度不足に伴うコンテナの重量制限などにより非効率な運営を強いられていた。また港湾区域内外に留置または放置されたコンテナ貨物が安全管理上の大きな問題となっていた。

2008年、我が国の一般無償資金協力「ポートビラ港埠頭改善計画」により、既存港湾施設の機能転換、ヤード拡張及び管理棟整備等が実施された。その結果、同港埠頭は、コンテナ貨物の効率的かつ安全な荷役が可能となった（水深-10.7m、岸壁延長213m、1バース）。同国においては、統計資料が不十分であることから、輸送貨物量の全体像を把握することは極めて困難であるが、現在、同港において、年間約70隻のコンテナ貨物船（年間推定約1万TEU）、年間約70隻の大型クルーズ船（観光客数約10万人）及びタンカー等合計200隻程度を受け入れている。また、同港及びルーガンビル港から輸送される離島への貨物量は年間約4万トンと推定されている。

観光業発展のために

同国は、豊かな自然と島独自の文化を観光資源として年間約20万人の訪問者を受け入れている。人々の目的は、マリンレジャー、火山ツアー、伝統的儀式の体験・見学など多様であり、また、群島を小型飛行機で巡るアイランドホッピングも人気である。同国への訪問者は、航空機利用とクルーズ船利用に二分される。前者の多くは他の島々を巡るなどして複数日滞在する一方で、後者はクルーズ船が着岸している時間帯（日中）のみの滞在である。この6年間でクルーズ船による訪問者数は2倍となり、今後も増加する傾向にある。同国を訪問するクルーズ船は、豪州P&O社が企画するクルーズ・ツアーがその大数を占める（同国に年間



ポートビラ港埠頭俯瞰写真 提供：五洋建設株式会社



着岸したクルーズ船とコンテナ貨物

65回程度寄港、全体寄港数の約9割以上）。これらのツアーは、シドニー、ブリスベンもしくはNZオークランドを基点としてニューカレドニア、フィジー及びバヌアツなどの大洋州島嶼国数カ国を7～10日間かけて巡る。

ポートビラ港に寄港するクルーズ船は、船長220～250m、重量5～7万トン（乗客数1,800～2,000人）であり、着岸時は岸壁を完全に占有する状態となる。その間は、岸壁使用の優先度が低い貨物船は荷役中断及び沖待ちを余儀なくされている。また、同埠頭は、貨物の取り扱い専用の埠頭として整備されたものであり、旅客ターミナルや商業施設などは整備されていない。今後、増加傾向にあるクルーズ船を効率的かつ安全に受け入れ、同国経済を支える基幹産業として成熟させるために、また、国内外の貨物及び旅客を効率的に扱うために、同国政府内からも貨物と旅客を分離した専用埠頭の整備が強く望まれている。

今後の港湾整備の可能性

国家開発政策「優先分野及び行動計画」（PAA 2006-2015）には、経済成長のための港湾施設改善及び国内海運サービス拡充を含む、経済基盤整備が重点事項のひとつとして掲げられている。本年、ADB及びNZ政府により、同国内島嶼間海運サービスの向上に関する調査が実施され、また、豪州政府により、ポートビラ港国際貿易埠頭改修計画に関する調査が実施された。同国政府は、これらの調査結果をもとに、現在は国際貨物とクルーズ船旅客を取り扱っている国際埠頭（我が国無償案件）をクルーズ専用埠頭に、また、国内貨物を取り扱っているスター埠頭を国際貿易埠頭に改修することを検討している。同政府は、これら埠頭機能の転化に伴い失われる国内貨物埠頭を新たな場所に整備することを模索している。

また、JICAにより、同国港湾整備に対する我が国円借款の実現可能性を確認するための必要な調査が実施されている。同国経済の基幹となる観光及びこれを支える社会基盤は、同国の発展に欠かせないものであり、その期待は高く、かつて無い注目が集まっている。